



飛鳥

ASUKA CRUISE

飛鳥クルーズスケジュール

秋の南紀クルーズ

10月7日(月)～10月9日(水)
旅行代金 96,000円

食事:朝2回、昼1回、夕2回 寄港地/東京→徳島→横浜

秋のみちのく紅葉クルーズ

10月9日(水)～10月13日(日)
旅行代金 192,000円

食事:朝4回、昼3回、夕4回 寄港地/横浜→江戸→東京

お伊勢さん2000年クルーズ

10月14日(月)～10月16日(水)
旅行代金 96,000円

食事:朝2回、昼1回、夕2回 寄港地/東京→鳥羽→東京

東京ワンナイトクルーズ

10月17日(木)～10月18日(金)
旅行代金 48,000円

食事:朝1回、昼1回、夕1回 寄港地/東京→東京

松山・姫路城クルーズ

11月17日(日)～11月21日(木)
旅行代金 144,000円

食事:朝4回、昼4回、夕2回 寄港地/東京→松山→徳島→横浜

志摩スズイン村クルーズ

11月22日(金)～11月24日(日)
旅行代金 96,000円

食事:朝2回、昼2回、夕2回 寄港地/横浜→浜島→横浜

※旅行代金には志摩スズイン村バスポート施設と志摩スズイン村と船との間の往復の交通費が含まれています。

ASUKAクラシッククルーズ

11月29日(金)～12月1日(日)
旅行代金 96,000円

食事:朝2回、昼2回、夕2回 寄港地/東京→東京

東京フィルハーモニー室内楽団が乗船します。

お手軽なワンナイトクルーズから

海外へのロングクルーズまで、

各種取り揃えておきます。

●乗船・船中は天候等により変更になる場合がございます。●乗船の

旅行代金は7人クルーズ(1名大人2名子供)を以て2名としてご利用

の1人旅行代金です。その他にも団体旅行のコースがございます。●

最少乗員2名(乗客乗員)同行いたします。●船内及び船外係員が

お話しします。●旅行代金に含まれるもの全食料(自前準備)は別料

金。エンターテインメントプログラム・アルコール飲料は別

料金です。

●詳しくは各旅行会社、または郵船クルーズ(株)まで

お問い合わせください。是非お問い合わせください。

●お申し込み・お問い合わせは、

●近隣の各旅行会社、または郵船クルーズ(株)まで

郵船クルーズ株式会社

〒100 東京都千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル

TEL.03(3284)6001

〒550 大阪市西区阿波座1-6-13 東京生命ビル6F

TEL.06(538)6250

ならずか、県の公共事業が自然を破壊し、野生動物を危機に陥れていると、かねてから自然保護団体は県の行政を批判していたのである。その代表的なものは、沖縄本島北部の山原と呼ばれる地区である。この一帯の山地は、五百メートルほどの高原地帯だが、亜熱帯性原生林に覆われていることから、ノグチゲラやヤンバルクイナをはじめ珍しい野生動物の宝庫なのである。

最近そこら一帯にいくつもの林道が引かれ出した。大国林道(大宜味村)国頭村間三十六キロ)である。山の中は至るところが削り取られ、赤土がむき出しになっている。雨が降れば、この赤土は急流とともに海に押し出され、美しい海を赤く染めてしまう。

「中央のもっとも自然が良好な山深い場所を分断して行くわけですから、自然が破壊

され、生態系を破壊するのは確実です」(沖縄野鳥の会吉里伸会長)

これらの工事はすべて県知事大田の名で行われているものだ。したがって、どんなに雑誌で格好のよい発言をしても、「何をいっているんだ。自分が率先して環境破壊をやっているくせに」というわけである。

また吉里会長によれば、沖縄でシギチドリが多いところは那覇市の漫湖公園で、その下流には内陸型の干潟があるという。そこがかなりの部分埋め立てられ、最盛期には八千羽も来ていたのが、今では鳥の数が十分の程度まで減ってしまったという。埋立では豊見城村での、干潟の問題がある。昨年十一月から県民への縦覧が始まった「豊見城村地先開発事業」は、干潟の一部を埋め立て、企業を誘致したり住宅にしようというプロジェクトだが、これがまた

自然保護派の危機感を募らせている。すでに沖縄本島の干潟はほとんどが埋め立てられ、渡り鳥の飛来地として有名なこの地は、最後に残った干潟であると考えられている。

十一年前に干潟を埋め立てて工場誘致を図った隣りの糸満市の埋立地は、半分以上が空き地のままになっている。公共事業に対する国庫の高率補助で、行政の長が大田に代わってもなにも変わることもなくせせと自然破壊を続けているようだ。

「県の出先機関の理事長に、私たちの考えを伝えたのですが、『もう遅い。環境庁の認可も下りて、すでに決定していることなので対応しない』と断られて取り合ってくれない。こんなことがあってもいいのか、と思います」(前出吉里会長)

自然保護団体のある人は、「こういう」



飛鳥

ASUKA CRUISE



何もしない贅沢 飛鳥の旅

飛鳥の旅は、多彩なプログラムや、数々の施設がそろう。旅するものを決して飽きさせない。でも、飛鳥ならではの、もうひとつの旅の楽しみ方がある。それは、刻一刻と変化する海原を前に、ただ黙って、ゆったりと海を眺めながら過ごすこと。こんな自由で、贅沢な楽しみ方は、飛鳥クルーズならではのものです。心ゆくまで贅沢な旅の気分を満喫できる、飛鳥クルーズ。

●「飛鳥」について詳しくお知りになりたい方は
郵船クルーズ株式会社
〒100 東京都千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル
TEL.03(3284)6001

なり小なり住民同士が促進派と阻止派に分かれて争ったため、相互の不信感は頂点に達している感もあった。そこへ大田は、油を注いだのである。

新石垣空港の担当で、カラ岳東案の取りまとめに奮闘していた仲井真副知事は、この決定に激怒し県庁を去った。この通産省出身の有能な副知事は、こうして大田に切れられ今電力会社にいる。

宮良牧中というところは、過去二十年にわたって土地改良のために資金が投下され続け、今では石垣でもっとも生産性の高い農地といわれる場所である。このため、成田空港並の反対運動が展開されているのは報道のとおりである。平成五年八月、大田は自ら説明に行くと呼んで石垣へ渡ったが、反対派住民のピケに阻まれ空港から外に出ることもできず、もちろん現地を見る

こともなく空しく引き返した。以来大田は一度も石垣へ足を向けていない。

新石垣空港建設は、いまだにもめ続けている。八月十四日から、県土木部の作業班が空港建設の調査のために宮良牧中へ立ち入った。作業班はここでも農民の激しい抵抗に遭い、作業半ばにして諦めざるをえなかった。大田はこのときペルーなどへ外遊中だった。

大田は「マジョリティがマジョリティを強引に抑えるのを批判し続けてきた」という。そして基地の反戦地主や一坪地主たちマジョリティに意を用いて代理署名を拒否した。それならば大政翼賛的に反基地ムードをあり、契約地主や基地従業員をマジョリティに落とし込め、土地を守ろうと権力に抗して必死に座り込む農民などのマジョリティになぜ思いが至らないのだろうか。

か。

大田県政になってある意味でもっとも喜んだのは、自然保護派の人々であった。西銘県政は保守政権だけに、経済運営中心、開発優先であった。そのアンチテーゼとして登場したのが、大田だったからである。ところがその自然保護派の大田が、昨年十二月号の『世界』で、基地の実弾演習に触れて、「これは自然破壊の問題です。自然破壊がこれだけ世界的に大きな問題になっているが、日本の自然保護団体はこの問題について全然発言しない。どうして黙っているのでしょうか」と発言した。

これに地元の自然保護団体がいっせいに激しく反発した。実は、大田は知ってか知